

共創工学部文化情報工学科（仮称）担当の教員の公募にむけて

2022年5月25日 文化情報工学科（仮称）設置準備委員会

今回の教員公募にあたり、文化情報工学科（2024年4月設置予定、仮称）の教育体制について、構想の概要を説明いたします。（本構想は決定事項ではありません。学部学科設置は予定であり、今後変更されることもあります）

【工学知と人文知の協働】

共創工学部では、工学に文系の知を協働させることをねらいとします。文化情報工学科では、人文学の資料（テキスト、造形、動作など）をデータサイエンスの技術・技法によって生成・加工・分析した上で、文化の創成や社会実装する技術・思考を身に付けます。データサイエンスや社会実装にむけたデザイン（設計・評価）の能力が工学に立脚する部分となります。

【文化情報工学とは】

文化情報工学は、**人文知とデータサイエンス**の相互作用から生まれる**新しい工学**です。工学は、人間の生活を豊かにする「新たなもの」を人工的に作り出してきました。「未知のもの」をつくるという点では、芸術や文学（アート）と同じです。従来の工学が自然科学を基盤としていたのに対し、文化情報工学は、人文学を基盤に、古今東西の「一つしかないもの」を尊重し、情報技術や工学のデザイン思考・技術を用いて、その価値の理解と文化の創造を行います。また、人文学の資料や着想に触れることによって情報科学技術そのものの展開が期待できます。

【専門教育課程】

文化情報工学科は、全学的な「複数プログラム選択履修制度」にもとづき、専門教育科目として「文化情報工学主プログラム」と「文化情報工学強化プログラム」、および他学科他学部向けに「文化情報工学学際プログラム」を開設します。

専門教育では、「文化情報工学主プログラム」を必修（第一プログラム）とし、第二プログラムとしては、文教育学部や生活科学部が開設する人文知に関わる副プログラム（20単位）、または工学知を深める「文化情報工学強化プログラム」を履修します。お茶の水女子大学独自の複数プログラム選択履修制度を活用することにより、工学知と人文知の協働と学部をこえた学際教育が可能となります。

【学生の進路】

データサイエンスやICTなどの科学技術を駆使して、人間の文化と社会に関わる多様な資料を収集・加工・解析し、新たな価値や文化を発見・創造し、イノベーションを進める諸分野。

○情報・コンサルティング、金融・保険・流通、新聞・放送・出版・文化、教育、製造業、官公庁・公共団体など

○大学院進学

【教員組織】

教員組織は、データサイエンス（工学）系と人文情報学系の二つの専門領域から構成されます。

データサイエンス（工学）系（専任教員5名、うち3名新任）は、情報学分野（データサイエンス、データベース、情報工学、マルチメディア、情報数理など）やシステム工学（システムデザインなど）を専門とし、データサイエンス（情報科学・工学）系の授業科目を主に担当します。人文情報学系（専任教員5～6名）は、人文学を専門とし、人文情報学（Digital Humanities、地理・歴史・言語・文化・芸術など）系の授業科目を主に担当します。

今回公募する新任教員は、学内組織である文理融合 AI・データサイエンスセンターに所属し、共創工学部の設置準備（教案・教材・履修ガイド作成、広報など）を担当するとともに、全学的なデータサイエンス&デザイン思考教育の推進に関わることとなります。